

大地

Gembaのミライ探訪

株式会社廣瀬 新潟県新潟市

「遠隔操作」で多角的な価値を創造

Gembaデイスカバリ

「漁業」 歯舞漁業協同組合 北海道根室市

寒冷地の高度衛生管理型市場を支える
電動式フォークリフト

「畜産業」 株式会社宮崎ムラチク 宮崎県宮崎市
365日止まらない現場。
食の安全と働く人を機械化が支える



Contents

Gembaのミライ探訪

「遠隔操作」で 多角的な価値を創造

株式会社 廣瀬 新潟県新潟市

Gembaディスカバリー“漁業”

寒冷地の高度衛生管理型市場を支える 電動式フォークリフト

歯舞漁業協同組合 北海道根室市

Gembaディスカバリー“畜産業”

365日止まらない現場。 食の安全と働く人を機械化が支える

株式会社 宮崎ムラチク 宮崎県宮崎市

Daichi Report

街と調和し際立つ性能で 多様な現場に対応 新世代都市型油圧ショベル

はっとりひろきのスケッチブック

人と人のご縁で始まった 「現場」を巡る旅のはじまり コマツテクノセンタ 静岡県伊東市

城所先生の次世代につなぐ経営講座

ここが変わる！ 令和8年度税制改正 経営者の皆さまが押さえておきたい重要改正

現場安全講座

油圧ショベルで鉄板を吊り上げ中、 フックから外れ落下



表紙の写真：
株式会社廣瀬の社屋から現場の建機を操作可能にする
遠隔操作システム搭載のIntelligent Circle型コックピット

建設現場の未来を創造

Smart Construction®

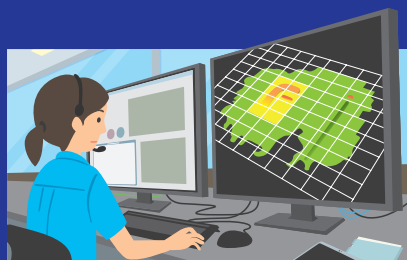
それは、建設生産プロセス全体のあらゆる「モノ」のデータをICTでつなぐことで、測量から検査まで現場のすべてを「見える化」し、安全で生産性の高いスマートでクリーンな未来の現場を創造していくソリューションです。

人手不足解消や安全性の向上など建設現場のさまざまな問題・課題解決に貢献します。

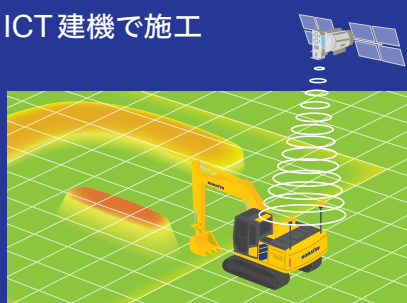
1 3次元測量・ドローン撮影



2 3次元設計図



3 ICT建機で施工



Smart Construction®サイトへ



Gembaの
ミライ探訪

株式会社廣瀬



「遠隔操作」で 多角的な価値を創造

より良い現場の実現に向け、土木業界ではデジタル化・自動化が着実に進展してきた。その次なる技術の一つとして注目される「遠隔操作」。本技術は単なる効率化にとどまらず、働き方や安全性のあり方にも変革をもたらす可能性を秘めている。こうした広い視野のもと、業界に先駆けて遠隔操作対応機を土木の現場へ導入した新潟県新潟市の株式会社廣瀬を訪ね、その取り組みと価値創造の本質に迫った。



株式会社廣瀬

企業永続の基盤は「信用第一」

新潟県新潟市に本社を構える株式会社廣瀬。創業は1954年、初代の廣瀬廣政氏が個人で土木業を始めたことがきっかけだ。そのあと、新潟県内で土木工事業の基盤を築き、1973年には株式会社新潟廣瀬組として会社化、2001年には現在の株式会社廣瀬へ社名を変更した。土木業から始まった事業は現在、建設、不動産、介護福祉など多岐にわたり、廣瀬グループとして地域社会に必要とされる企業であり続けている。

「私が実質的に事業を引き継いだのは1977年になります。当時は会社の規模も小さく、壁にぶつかることも多くありました。しかし、創業者である父の口癖であった『信用を地道に積み上げていくことが一番大切』という言葉を胸に、会社全体でいただいた仕事を一生懸命やり遂げることで信用を積み重ね、今に至ります」と代表取締役の廣瀬徳男氏は語る。

ICT活用で現場の課題解決に向き合う

同社のICT活用は、現場で生じた課題を解決しようとする取り組みから始まった。きっかけは、普段の測量作業に不便があるという現場の声だった。そこでドローンを導入し、コマツのSmart Construction Edgeを活用した写真測量を開始した。



株式会社廣瀬
代表取締役
廣瀬徳男 氏

現場での課題を一つずつ解決していく過程で、ドローンによる測量データの活用が進み、掘削量の把握や施工状況の確認など、現場管理の精度向上へとつながっていった。その後は地上レーザも導入し、三次元測量へと発展。より効率的で高度な施工管理が可能となった。

こうした取り組みは、特別な理念から始まったものではなく、目の前の課題に向き合い、現場をより良くしようとする姿勢の積み重ねのなかから生まれたものだという。



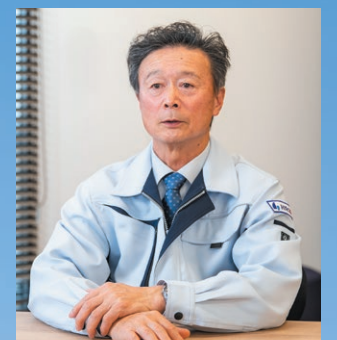
本社内2階に配置されている遠隔操作システムのIntelligent Circle型コックピットから油圧ショベルPC200-11の操作を行っている様子

業界に先駆けて挑戦した「遠隔操作機」の現場導入

2023年、同社は新潟県の企業で初めてインフラDX大賞を受賞した。しかし、そこで歩みを止めることはなく、遠隔操作システムのIntelligent Circle型コックピットを2台、それに対応するコマツの油圧ショベルPC200-11を2台、本格的に導入した。その背景にあるのは、国土交通省が進めるi-Construction2.0による自動化・遠隔化の流れに加え、展示会や技術発表会などを通じ

て新しい技術に触れてきた経験だった。

「技術はすごいスピードで進化しています。だから、私たちが何事も変わらないということは、後退していることと同義だと考えています。新しい技術が出てきたら、まずは見て、触れて、現場で使えるかを考える。それを繰り返しながら次の一步を選んでいくことが大切だと思っています」という考えのもと、同社では新技術を積極的に取り入れながら、現場に即した活用を模索し続けている。



株式会社廣瀬
土木事業部 工事システム管理部 部長
星野正人 氏

株式会社廣瀬



多様な働き方を可能にする遠隔操作技術

同社では現在、川幅を広げる工事現場で遠隔操作システム対応の油圧ショベルを用いて、掘削した土砂をダンプに積み込む作業を行っている。遠隔操作用コックピットは本社屋の2階に設置されており、中継機を介した通信によって現場の建機を操作する仕組みである。コックピットには必要な情報を確認しやすいよう7つのモニターが配置され、内蔵スピーカーによって現場の音もリアルタイムで把握できる。

「最初にコックピットに乗って操作した時は、モニターなど実機との違いに戸惑うところもありましたが、遠くにある油圧ショベルをこの場所から動かしているということ自体が驚きでしたし、嬉しさもありました」と笑顔で語るのは、土木事業部 工事システム管理部 ICT 推進室の小林氏である。現在は現場担当として、遠隔操作システム対応油圧ショベルの起動準備や作業後の機材の片付け、機体の位置調整などの段取りも担っている。

遠隔操作はエアコンの効いた屋内で行えるため、気温や砂ぼこり、振動といった負担を大きく軽減できる。こうした環境は多様な人材が建設現場に関わる可能性を広げる。

「一番助かるのは、自分のタイミングで気軽に休憩を取れることです。実機だと手間を考えて水分補給を控えてしまうこともありますが、遠隔操作ならそれも必要ありません。水分をしっかり取ることもできるので健康面でも良いと思います」と土木事業部 工事システム管理部 ICT 推進室の平井氏は語る。

遠隔操作コックピットが生む新たな人材の入口

人材不足という大きな課題に対し、同社は遠隔操作コックピットを解決の“起爆剤の一つ”と捉えている。実際、中途入社社員である小林氏も、この設備を紹介した地元のネット記事をきっかけに同社へ興味を持ったという。

「このコックピットには人を惹きつける魅力があります。それは性能だけではなく、外から見えるようにしたり、地元の小中学生の見学を受け入れたり、取材を受けたりと、多くの人に知ってもらう機会をつくっています」と星野部長は話す。

同社では、遠隔操作を単なる機械としてではなく、多面的な価値を持つ存在として捉えている。それは、すぐに大きな利益を生むわけではないが、企業のブランド力向上や発信力の強化につながる「文化資本」のようなものだ。技術導入をきっかけに人や企業とのつながりを広げ、会社の魅力を高めることで人材を呼び込む。株式会社廣瀬は、そうした好循環の実現を目指している。



株式会社廣瀬
土木事業部 工事システム管理部 ICT 推進室
小林 氏



株式会社廣瀬
土木事業部 工事システム管理部 ICT 推進室
平井 氏



夜間、社屋に面した道路から見える遠隔操作コックピット

漁業

歯舞漁業協同組合



寒冷地の高度衛生管理型市場を支える 電動式フォークリフト

北海道・根室半島 日本本土最東端近くに位置する、歯舞漁業協同組合。
高度衛生管理型市場では、排気を伴う車両の進入が認められないため、
寒冷環境にも対応した特別仕様の電動式フォークリフトを一挙に8台導入した。
現在は計12台の電動式フォークリフトが水産物の搬送を担い、
日々の市場業務を支えている。



歯舞漁業協同組合
専務理事
中村直樹 氏

日本本土最東端の漁業協同組合

北海道東部、根室半島の中央部に位置する歯舞漁業協同組合は、日本本土最東端にある漁業協同組合だ。北方領土に連なる歯舞諸島とも歴史的・地理的つながりを持ち、地域漁業を支える拠点として長い歩みを重ねてきた。

その前身は1912年に設立された「歯舞他5ヶ村漁業組合」にさかのぼる。1944年に「歯舞漁業会」へと改組され、1949年に水産業協同組合法の施行に伴い、現在の歯舞漁業協同組合として再編された。現在の組合員数は約740名。漁業生産から流通、金融、資源管理までを一体で支え、地域漁業者の生産活動と生活基盤を支える組織として発展を続けている。

市場業務を支えるフォークリフト

同組合の市場では、早朝から夜まで水産物が絶え間なく動く。業務は水揚げされた鮮魚の荷受けから始まり、セリの時間帯を除き、水産物の搬入作業が続く。すべての搬入が終了した時点で、その日の業務は一区切りとなる。

この一連の流れのなかで、フォークリフトは市場運営を支える中核だ。水揚げされた水産物の施設内移動や、セリ終了後に買い受け人へ商品を引き渡す際の搬送に欠かせない。プラスチックコンテナを載せたパレットや、鮮魚を収容した専用タンクなど、大量かつ重量のある水産物を扱う。「フォークリフトがないと作業は進みません。市場を成立させる基盤ともいえる、なくてはならない存在です」と専務理事の中村直樹氏は語る。

新施設整備を契機に8台の電動式フォークリフトFE25H-1を導入

現在、市場施設では、FE25-2を含め、計12台の電動式フォークリフトが稼働している。この導入の背景には、高度衛生管理型市場を中心に整備された新たな市場施設の存在がある。

同組合では2018年より、「衛生管理機能の高度化」「水産物流通の効率化」「防災・減災機能の確保」「都市漁村交流の推進」の4つをコンセプトに、市場施設の再整備に着手した。高度衛生管理型市場を目指し、「優良衛生品質管理市場・漁港認定」の取得を目標に掲げた。この認定では、大日本水産会が定めた高度な衛生基準に基づき、市場空間の外部環境からの完全隔離と排気を伴う車両の進入禁止が絶対条件とされている。

こうした背景から、従来のエンジン式ではなく電動式フォークリフトへの転換を検討。コマツと共に電動式フォークリフト導入プロジェクトを進めた。約1年間の調査を経て、寒冷地の市場施設に適した電動式フォークリフトの開発を行い、8台導入へと至った。



荷を持ち上げると同時に重量を計測できる計量機能を装備。
タンクやパレットの搬送と計量を一工程で行える



電動式フォークリフトの充電作業。夜間充電を基本とし、必要に応じて
急速補充電も併用



回転フォークにより、タンクに入った水産物を
別のタンクへスムーズに移し替えることができる



厳しい寒冷環境に対応した特別仕様

一般的な電動式フォークリフトは運転席が開放された仕様で、オペレーターが風雪にさらされる構造となっている。冬季の歯舞地区では体感温度が-15℃以下になることもあり、そのままでは実用に耐えない。そこで運転席を密閉構造のスチールキャブ仕様とし、オペレーターを寒さから守る特別仕様を採用した。

さらに、低温環境ではフロントガラスの曇りや凍結が発生するため、ヒーターに加え、ガラスの内側の曇りや氷結を素早く除去するデフロスターを装備。寒冷地でも安定して稼働できる環境を整えた。

一方で、キャブの密閉化や暖房装置の追加は電力消費の増加を招く課題があった。バッテリーフォークリフトFBシリーズでは、急速補充電に対応しておらず、稼働時間の制約からキャブ仕様の実現は難しかったが、FE25H-1では急速補充電が可能となったことで、バッテリー性能の向上と併せ、暖房使用時でも十分な稼働時間を確保できるようになり、キャブ仕様の適用が可能となった。

オペレーターの市場部 市場二課の山崎真吾氏は「スチールキャブでヒーターも付いているので冬場は助かります。また、電動式は静かなので作業中でもコミュニケーションが取りやすく、指示を出しながら作業できる点も効率化につながっています」と、FE25H-1を高く評価する。

漁業市場の業務に対応した専用仕様

さらに、漁業市場特有の業務に対応するための専用仕様が備えられている。その代表的な装備が「回転フォーク」と「計量機能」だ。回転フォークにより、荷受けした水産物を収容したタンクの中身を、買い受



館内に掲げられた歴代組合長の掲額。地域漁業を支えてきた長い歴史を物語る



歯舞漁業協同組合
市場部 市場二課
山崎真吾 氏



け人のタンクへと安全かつ迅速に移し替えることができる。また、計量機能により、フォークを持ち上げると同時に重量を計測できる。作業時間の短縮だけでなく、人手負担の軽減や作業動線の簡素化にもつながり、市場業務全体の効率化に貢献している。

充電器もフォークリフトと同じ8台を設置した。荷受け業務終了後に夜間充電を行い、翌朝にはフル充電の状態での稼働を開始する。通常は夜間充電で1日の業務をまかなえるが、繁忙期など稼働負荷が高まる場面では、急速補充電を併用して運用している。

デジタル化と人材育成で人手不足に対応

同組合では、深刻化する人手不足への対応として、業務効率化と人材確保の両面から取り組みを進めている。業務面では、「荷受けシステム」を導入した。従来は、セリで落札された水産物の情報は現場で手書き伝票に記録し、事務所でPCに入力して精算書を作成していた。現在は、現場でタブレットに入力するだけで精算処理まで完結する。事務所へ戻る必要がなくなり、入力ミスの削減と業務効率化を実現した。人材確保の面では、漁業後継者向けの助成制度を活用し、技能講習や資格取得の受講料半額助成や、結婚・出産時のお祝い金支給など、若手漁業者が地域に定

着しやすい環境づくりを進めている。

また、東海大学との連携によるインターンシップ制度も実施。学生が約3週間、地域の漁家に滞在しながら昆布干しなどの作業を体験し、修了すると単位が取得できる仕組みだ。

デジタル化による効率化と、若い世代を呼び込む仕組みづくり。その両輪によって、歯舞漁業協同組合は地域漁業の持続性向上に取り組んでいる。

地域漁業の未来を支える取り組み

歯舞漁業協同組合が目指しているのは、単に市場機能を維持することではなく、地域そのものの未来を支えることにある。若い世代が地元へ戻り、地域産業の担い手として活躍することが、漁業の持続と地域活性化につながる。「地域のため、そして漁業のためにできることを続けていきたい。この新施設がそのための拠点となり、新しい人や取り組みが生まれていく場所になればと思っています。歯舞の漁業を未来へとつないでいくために、これからも挑戦を続けていきたい」と中村専務理事は語る。設備投資、人材育成、業務改革を一体で進めながら、これからも地域漁業の未来を切り拓く取り組みを積極的に推進していく。



2022年に供用開始した高度衛生管理型市場。延床面積約2,600㎡の施設が、水産物流通の拠点として機能するとともに、防災や地域交流の役割も担っている

畜産業

株式会社宮崎ムラチク



365日止まらない現場。 食の安全と働く人を機械化が支える

人手不足への対応、作業負担の軽減、そして安全性向上。

畜産業を取り巻く環境が大きく変化するなか、

宮崎ムラチクグループでは機械化を推進している。

グループ全体で建機を効率的に運用しながら、持続可能な農場運営を実現。

これからの畜産業の一つのモデルケースがここにある。



株式会社宮崎ムラチク
顧問
永野春海 氏

宮崎に根差した総合畜産グループ

宮崎県南部の宮崎市古城町に拠点を構える株式会社宮崎ムラチク。創業は1988年、食肉卸業からスタートした。その後、養豚、養鶏、肉用牛の肥育へと領域を広げ、現在では飲食業や不動産業も手がけるなど、畜産を軸に多角的な事業展開を進めている。農場の運営や養豚、肥育などは宮崎ムラチクの傘下であるグループ会社の4社が担っており、同社はそれらを統括・管理する中核企業として機能している。こうした分散型の体制により、各農場が現場ごとの特性に応じた運営を行いながら、グループとして安定した供給体制を実現している。

創業者であり、現在は顧問を務める永野春海氏は「当社の一番の強みは借金がないことです。堅実に一つひとつ事業を育てて、徐々に事業を拡大してきました。手堅く信頼を積み重ねて、現在に至っています」と同社の歩みを語る。

グループ全体で使用する建機を最適運用

同社とコマツとの関係は、2012年にミニホイールローダー WA40を中古で導入したことに始まる。現場での有用性が高く評価され、現在では毎年2台程度の建機を継続的に導入し、コマツの建機はグループ全体の運用に欠かせない存在となっている。

建機の導入は宮崎ムラチクが一括して行っている。グループ会社の農場の稼働状況や作業内容を把握したうえで、グループ全体のコストや収益バランスも踏まえながら、必要な機種・台数を見極めている。導入された建機は各農場へと配置されるが、その運用は固定的ではない。農場ごとの作業内容や繁忙状況に応じて、グループ内で柔軟に移動や再配置調整が行われ、常に最適な状態で活用できる体制が整えられている。

電動式建機を活用し快適な養豚環境を実現

宮崎県東諸県郡綾町に拠点を構える有限会社日武畜産は、養豚を担うグループ会社の一つ。約5,000頭の豚を飼養している。豚舎の床には約40cmの厚さに敷き詰めたオガクズを使用し、微生物の働きによって糞尿を分解・発酵させることで、衛生的な飼養環境を維持している。

発酵を促進するにはオガクズを攪拌する必要がある、その作業に使われているのが電動マイクロショベルPC05E-1だ。バケットでオガクズを持ち上げ、攪拌する。豚舎の大きさに適したコンパクトなサイズで、取り回しの良い作業を実現している。「動物は音に敏感です。大きな音に反応して騒いでしまうこともあります。その点、電動式は静かなので動物にストレスを与えることなく作業でき、排ガスがないのもいいですね。豚にも作業する側にも安心です。また、低振動なので身体への負担が少なく、快適に作業でき



豚舎から搬出したオガクズを堆肥舎へ運搬するWA100-7



PC05E-1 専用充電器。家庭用の100V電源で充電ができる



有限会社日武畜産で農場管理を担当する黒木智氏。コンパクトなPC05E-1を操作し、豚舎内でオガクズの攪拌作業を行う



有機質堆肥を生産している日武畜産の堆肥舎。微生物の働きによって発酵熱が生まれ、湯気が立ち上る

ます」と日武畜産の農場の管理を行っている黒木智氏は語る。

糞尿を含んだオガクズは堆肥として再利用される。同社では、専用機械で攪拌を行うスタイルの堆肥舎を導入している。一定期間を過ぎた豚舎のオガクズを堆肥舎へと移動し、攪拌・発酵させることで有機質堆肥を生産している。豚舎から堆肥舎へのオガクズの搬送作業を担っているのが、ホイールローダーのWA100-7とミニホイールローダーのWA50-8だ。「大量のオガクズを効率的に移動できます。パワーがあるのでしっかり運べますし、安定した作業が円滑な農場運営を支えています」と黒木氏は話す。

建機の活用により、食の安全と効率を両立

日南市南郷町に拠点を構える有限会社南郷ファームは、養豚、養鶏、肉用牛の肥育に加え、食肉加工までを手がける総合畜産企業だ。同社の豚舎は日武畜産とは異なり、オガクズ床ではなくコンクリート床を採用している。1カ所に集められた糞尿は糞と尿に分別され処理される。糞は堆肥となり、尿は浄化槽で処理し放流する。

同社では、糞をオガクズと混合して堆積し、ブロアーで空気を送り込みながら発酵を促進する方式で堆肥化を行っている。微生物の働きによって高温で分解が進み、堆肥が生産される。ここでもWA50-8が、オガクズと糞の混合物を堆肥舎へ積み込む作業や、生産された堆肥の移動などで活躍している。「コマツのミニホイールローダーは、バケッ



有限会社南郷ファーム
社長
西岡佑樹 氏

ト操作が滑らかで扱いやすいですね。堆肥を高く積み上げる作業でも安定感があり、安心して使えます。毎日使う機械だからこそ、作業効率やオペレーターの負担軽減につながっています」と南郷ファーム社長の西岡佑樹氏は語る。

同社では食肉の安全性を最優先し、バイオセキュリティ対策を含めた万全の飼養衛生管理体制を構築して『農場 HACCP 認証』を取得。安全・安心な食肉の供給に取り組んでいる。「安全は最重要課題です。コマツの建機のおかげで効率的な作業が可能となり、その分、安全性の確保に注力できます。コマツは安全な農場運営には欠かせないパートナーです」と西岡社長はコマツを評価する。

地域に根差し、地域と共に歩む

宮崎ムラチクグループでは、地元に根差す企業として、地域社会との関わりも重視している。南郷ファームでは、農場で製造された堆肥を良質な有機肥料として無料で地域住民に提供。周辺農家や家庭菜園での野菜や果樹の栽培に使われている。また、学校給食に食肉を提供していることから、年に一度、同社のスタッフによる小学校での食育イベントを行っている。その日は、農場で育てた地鶏「地頭鶏」を提供し、スタッフが児童と一緒に給食を食べながら、農場や食肉について説明する。本イベントは児童が



食育イベント後、児童から贈られた寄せ書きを手にする永野顧問(左)と西岡社長(右)

Gemba ディスカバリー



南郷ファームの堆肥舎内で堆肥の積み込み作業を行うWA50-8

らの人気も高く、毎年寄せ書きが届けられるなど、温かなつながりが生まれている。

そのほか、地域の清掃活動に積極的に参加したり、お祭りなどの地域イベントに食肉を提供したり、さまざまな形で地域貢献に取り組んでいる。

機械化が支えるこれからの畜産業

畜産業は深刻な人手不足に直面している。事業を成長させていくうえで機械化の推進は欠かせない。「畜産業は365日、休みがありません。限られた人手のなかで、いかに効率よく現場を回していくか。そのためには機械による自動化が必須です。機械であれば故障しても直すことができますが、人が倒れてしまったら意味がありません。会社の成長のためにも、働く人のためにも、今後も積極的に機械の導入を推進していきます」と機械化の重要性を永野顧問は説明する。

食の安全と快適な作業環境の構築。その両立を実現するうえで、機械化は欠かすことのできない要素となっている。グループ全体を俯瞰し、建機の導入と施設の機械化を積極的に推進する宮崎ムラチク。この戦略的な取り組みは、これからの畜産業の一つのモデルケースといえるだろう。



山々に囲まれた南郷ファーム。地域に根差しながら、総合的な畜産事業を展開している

街と調和し際立つ性能で 多様な現場に対応 新世代都市型油圧ショベル

従来のPC128US / PC138USに加え、ICT機能を搭載したICT建機(PC128USi / PC138USi)を同時にラインアップ。高い作業性とコストバランスに加え、ICT建機ではマシンコントロールによる施工支援を選択でき、現場の施工内容やICT活用度に応じて最適な機種を選択できます。

PC138USi-12
PC138US-12
PC128USi-12
PC128US-12



オペレーターの負担を軽減する快適な作業環境

キャブの大型化により、後方超小旋回機でありながら広々とした空間を実現しました。ワイドな前方視界に加え、足元スペースも従来機比で約30%拡大し、ゆとりある作業環境を確保しています。さらに、刷新したエアサスペンション付きシートに加え、コンソール高さやアームレスト高さ・角度も調整可能。コンソールのシートマウント化により、最適なポジションを確保できるため、長時間作業でも疲れにくく、オペレーターの身体への負担軽減に貢献します。



作業の幅を広げる高い汎用性と拡張性

狭所でも安心して使える安全性能

都市部の工事現場では、限られたスペースで安全に作業できる機械が求められます。PC128US / PC138USシリーズは、後方超小旋回型の設計により、狭い現場での旋回時の接触リスクを低減。さらに、検知性能を高めたKomVisionを標準装備とし、カメラとレーダーで人や物を検知。警告・減速・停止制御を行うことで、周囲作業員との接触事故も防ぎます。また、新ライティングシステムにより、夜間作業時でも明るくクリアな視界と周囲の視認性を確保し、LEDを採用したステータスライトにより周囲に機械の稼働状況を見える化します。安全性と狭所作業性を両立し、都市土木の現場で安心して使用できる1台となっています。



白LEDデイルイト使用時(右)
アームクレーンモード使用時(左・オレンジ)
特定の色で点滅し、ステータス(稼働状況)を周囲に示します



新ライティングシステム
夜間作業時における周囲の視認性を大幅に改善

あらゆる作業環境に適合するベースマシン

電動逆転ファンがクーリングコアの目詰まりを抑え、粉塵の多い現場でも安定した冷却性能を維持します。さらに、作動油やフィルターの交換間隔延長により、メンテナンス負担とコストを低減。作業終了後はエンジンディレイシャットダウンにより、機械の状態に応じて自動で冷却し、エンジンを停止することで、機械への負荷を抑えながらオペレーターは待機せず作業を終えられます。また、操作が行われない状態が続くと主電源も自動でオフとなり、バッテリー上がりを防止します。加えて、登坂车速を従来機比20%向上させ、傾斜地での移動時間を大幅に短縮することで現場内の移動効率と作業全体の生産性向上に貢献します。現場環境を選ばず活躍するベースマシンです。

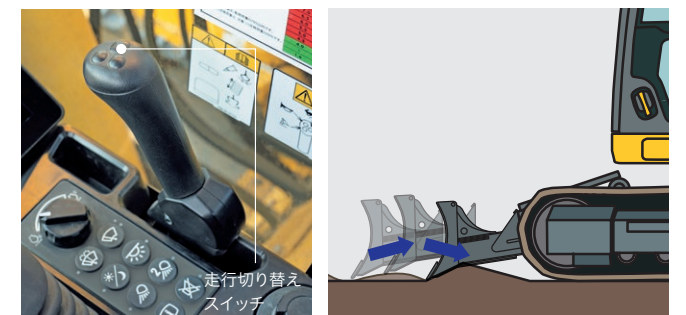


電動逆転ファン

高い作業性と省燃費の両立

制御システムを一新し、コマツ独自の電子制御油圧システム「EHS」を採用。燃費・作業性能・ロバスト性を向上させるとともに、電子制御ながら優れた微操作性を実現し、低温時の応答遅れも低減しています。また、ブレードレバーの走行切り替えスイッチにより変速操作性を向上。さらに、ブレード装着車には地面に自然追従するフロート機能を搭載し、整地作業効率を高めています。

エンジン出力アップ	(JIS D 0006-1)	スキトリ速度	PC128US/138US-11比
72.5kW※ → 80.0kW	※PC128US/138US-11	20%UP	※最大速度に設定した場合 ※PC138US/USi-12のみ
燃費効率	PC128US/138US-11比	登坂车速	PC128US/138US-11比
Pモード使用時 5%UP	※データは社内実測比較結果によるものです	20%UP	※登坂角度15度の場合。データは社内実測比較結果によるものです



ブレードレバー

ブレードフロート機能
ブレードの自重を利用して、ブレードでの整地作業の効率を向上

PC128US-12/PC128USi-12
PC138US-12/PC138USi-12の特設ページは、
こちらの二次元コードからご覧いただけます





はっとりひろきのスケッチブック

人と人とのご縁で始まった 「現場」を巡る旅のはじまり

コマツテクノセンタ(静岡県伊東市)

WA900 ホイールローダー

大規模な鉱山や砕石現場で使用される超大型ホイールローダーです。70~150tクラスのダンプトラックへの積み込み作業に最適化されており、強靱なバケットで岩石や土砂の掘削・運搬に威力を発揮



HD785 リジット式 ダンプトラック

最大積載量約90~100tクラスの非常に大型の車両であり、「鉱山」「採石場」「大規模土木工事現場」など、過酷かつ大容量の運搬が必要とされる現場で活躍

テクノセンタについては
こちらから



ワークショップを通じて、子どもたちの笑顔に触れる最高のひととき

はっとりひろき(絵本作家):整備士としてキャリアをスタートさせ、コマツリフト(現コマツカスタマーサポート)に約20年勤務。現在は絵本創作活動を中心に、地元の輸送企業で整備士としても働いている。

はじめまして。絵本作家であり、整備士でもある、はっとりひろきです。

私は長く建機や車両の整備に携わりながら、機械や乗り物のある現場の魅力を、絵を通して伝える活動を続けてきました。

今回、伊豆・修善寺図書館の坪内逸夫館長のお招きで、原画展とワークショップを開催する機会をいただきました。子どもたちと一緒に、手を動かしながらはたらく機械の話をする。そんなにぎやかで楽しい時間が流れていきました。

実は坪内館長の高校時代の同級生が、コマツの関連会社にお勤めとのこと。そのご縁もあり、近くにある伊東市のコマツテクノセンタを訪ねることになりました。

私はコマツに20年弱在籍していたこともあり、センタの皆さんとも自然と会話が弾み、懐かしい話に花が咲きました。整然と並ぶ建設機械を前にすると、整備士として働いていた頃の記憶がふっとよみがえります。

そのとき「春にはちびっこ見学会もありますよ」と聞き、ぜひその様子を見たいと思い、あらためて訪れることにしました。目を輝かせながら建設機械を見つめる子どもたちの姿は、私にとってもどこか新鮮で、そして少し懐かしい光景でした。

これからこの連載では、コマツの施設や現場、そしてかつての仲間やお客さまのもとを訪ねながら、現場の魅力をスケッチとともにお届けしていきたいと思います。人と人とのご縁から始まったこの旅が、どんな現場へと続いていくのか。私自身も楽しみにしています。



機械質量が約120tの大型油圧ショベルPC1250のバケットに立つ子どもたち。鉱山や大規模土木で活躍する機械のスケールを、体ごと感じるひととき



電動で静かに動く小型ミニショベルPC01Eを、スタッフに支えられながら操作する。その一瞬を、傍らで見つめる保護者が静かに写真に残していた

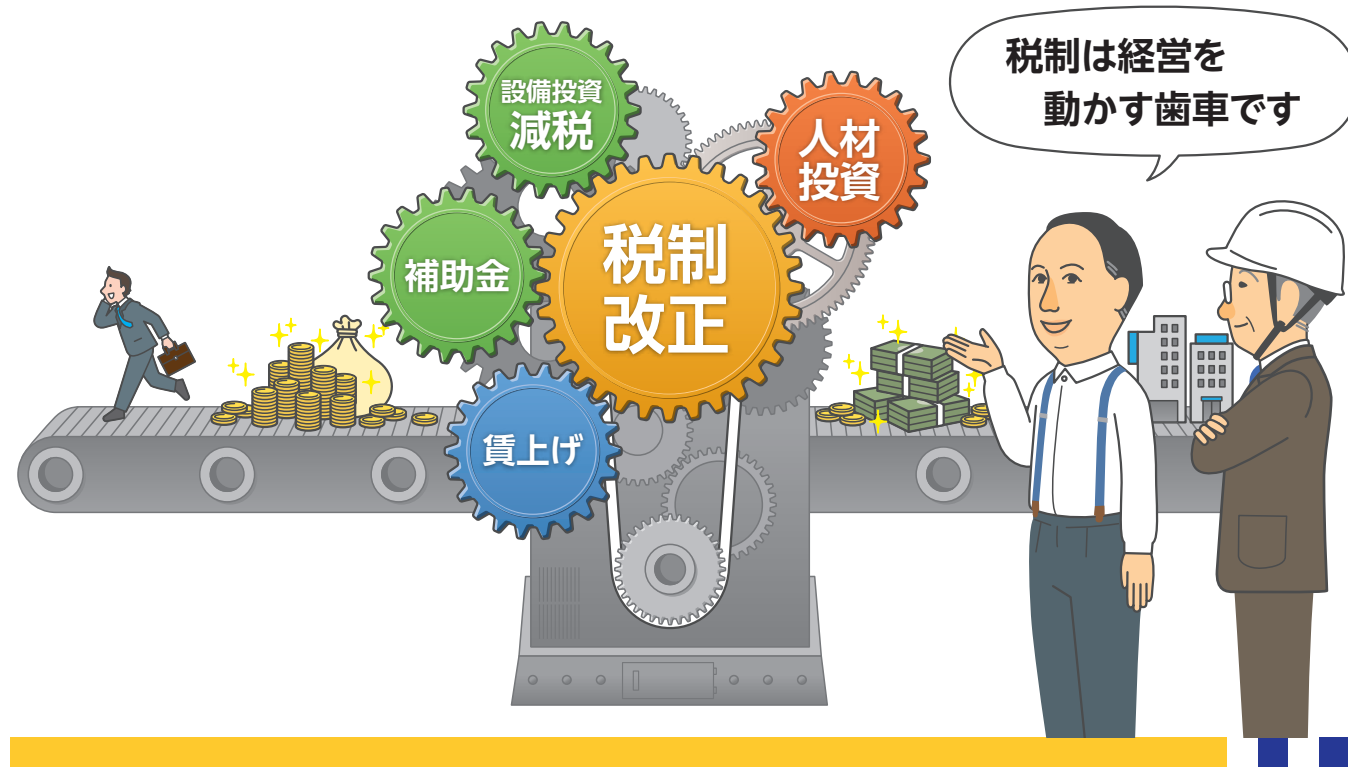
ここが変わる！ 令和8年度税制改正

経営者の皆さまが押さえておきたい
重要改正

こんにちは、『大地』の読者の皆さま、お元気ですか？

令和8年度税制改正の大筋が明らかになりました。今回の改正では、中小企業の設備投資を後押しする措置をはじめ、事業承継の円滑化、人材確保を支援する制度の見直しが行われています。これらの改正は、皆さまの設備投資計画や中長期の経営戦略に大きく影響する内容となっています。

今回は、経営者の皆さまにとって、特に影響の大きい改正内容に関して、ポイントを絞ってわかりやすくご紹介します。



1 少額減価償却資産の損金算入の特例の改正

項目1の詳細は
こちらから



1 制度の概要

一定金額以下の減価償却資産について、取得した事業年度に全額を損金算入できる制度です。

2 今回の税制改正内容

適用期限が令和11年3月31日まで3年間延長され、1台または1基当たりの取得価額要件が30万円未満から40万円未満に引き上げられます。

項目2の詳細は
こちらから



2 中小企業経営強化税制の改正

1 制度の概要

中小企業等経営強化法の認定を受けた経営力向上計画に基づき、対象設備の取得や製作等をした場合に、即時償却又は取得価額の10%の税額控除(資本金の額等が3,000万円超1億円以下の法人は7%)が選択適用できる制度です。

2 今回の税制改正内容

適用期限は令和9年3月31日までと変更はありませんが、工具・器具備品については、1台または1基当たりの取得価額要件が30万円以上から40万円以上に引き上げられます。

3 その他の設備投資関係の改正

中小企業投資促進税制の改正

工具の要件について、「1台または1基30万円以上で、その合計額が120万円以上」という要件が見直され、「1台または1基40万円以上で、その合計額が120万円以上」となります。

大型の設備投資促進税制の創設

大規模・高付加価値の投資を対象に、即時償却または税額控除(最大7%)が選択できる新たな制度が創設されます。

4 消費税インボイス制度「免税事業者の経過措置」の改正

項目4の詳細は
こちらから



1 免税事業者の経過措置の概要

インボイス制度導入に伴う負担を軽減するため、免税事業者からの仕入れについて段階的に仕入税額控除を認める制度です。

2 今回の税制改正内容

令和8年10月以降から仕入税額控除可能割合の引き下げペース・幅が緩和され、最終的な適用期限が令和13年9月30日まで2年間延長されます。

5 事業承継税制(特例措置)の改正

項目5の詳細は
こちらから



1 制度の概要

経営者が後継者に対して事業を承継する際、自社株式を対象とする贈与税又は相続税を一定の要件を満たすことで、納税猶予または免除を受けられる制度です。

2 今回の税制改正内容

「特例承継計画」の提出期限が令和9年9月30日まで1年6カ月延長されます。なお、制度自体の適用期限は令和9年12月31日までと変更はありません。

6 その他の改正事項

食事補助の非課税制度

従業員への食事補助を非課税とする制度について、月額上限金額が3,500円から7,500円に引き上げられます。

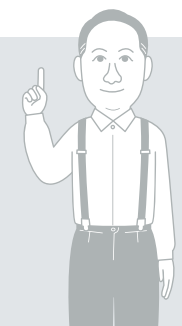
青色申告特別控除

一定要件を満たす場合、青色申告特別控除の控除額が最大75万円に引き上げられます。

キド先生の一言

今回の税制改正では、設備投資のタイミングや投資規模によって、税負担に大きな差が生じる制度が多く盛り込まれています。また、事業承継や人材確保に関する制度や補助金についても、早めの準備や計画策定が重要となります。コマツカスタマーサポートでは、税制改正を踏まえた設備投資や経営戦略に役立つ情報を提供しています。ご不明な点は、お近くのコマツ担当社員までお気軽にご相談ください。

公認会計士・税理士・行政書士 城所弘明



各改正の体系・スケジュール等の資料はこちらから



災害事例に学ぶ 現場仕事の安全対策



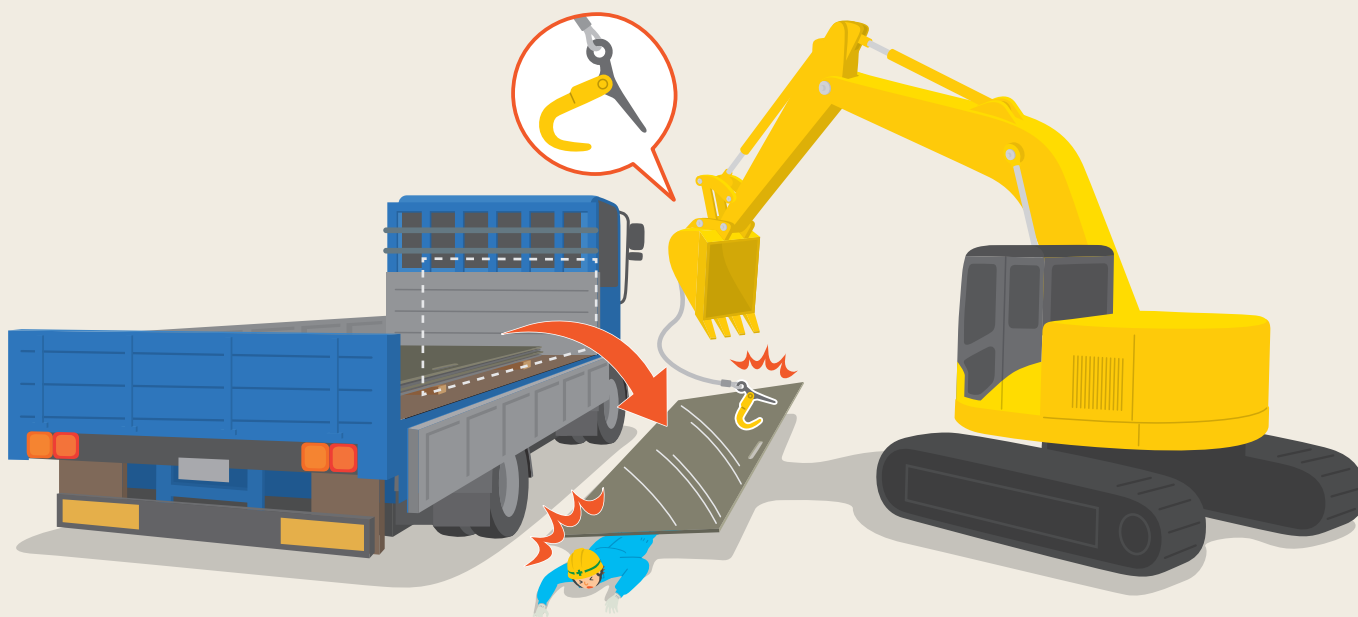
今回の
テーマ

油圧ショベルで鉄板を吊り上げ中、 フックから外れ落下

被災者：土工 被災の程度：死亡

災害発生状況

被災者は、資材置場に敷かれていた鉄板を撤去・運搬するため、3名で作業を行っていた。1名が油圧ショベルを運転し、被災者が鉄板へのフック掛けおよび誘導を行い、もう1名がトレーラー荷台の上で鉄板を寝かせる作業を分担していた。鉄板を荷台に降ろす際、既に積まれていた鉄板の上に一旦立てたところ、風にあおられて吊り穴からフックが外れ、トレーラー右後輪の脇に立って誘導をしていた被災者に当たり、下半身が鉄板の下敷きになった。なお、鉄板の倒壊防止策(固定等)は実施していなかった。



原因

- 車両系建設機械を使用するにもかかわらず、作業計画を定めていなかった。
- 吊り上げ用フックの外れ止め装置が破損していたにもかかわらず、そのまま作業を行っていた。
- 吊り上げた荷の落下により危険が生じるおそれのある場所に、作業員を立ち入らせて作業を行っていた。

対策

- 車両系建設機械を使用する場合は、作業計画を定め、その計画に基づいて作業を行う。
積み込み作業については、作業マニュアルを作成し、教育訓練を実施する。
- 荷の落下を防ぐため、ワイヤーロープの外れ止め装置を点検・整備し、常に有効な状態で使用する。
鉄板等を吊り上げる際は、安全な専用吊り具を使用する。
- 吊り荷との接触や落下の危険がある場所に、作業員を立ち入らせない。

明日の現場を変える、
新たな一歩。



新世代油圧ショベル

PC128US-12 / PC128USi-12
PC138US-12 / PC138USi-12

KOMATSU
Creating value together

大地
よりよい現場の未来を創る

2026 Vol.153

発行: コマツ 建機マーケティング本部 国内事業本部
〒108-0072 東京都港区白金1-17-3 NBF プラチナタワー

